綾重衣
紋廻春
秋初編
山門
五重塔
浅草寺観音堂
梅堂國政画
天野可春閲
金春流
壽桜
尼田彫長
伊東勇三郎

浅草観音堂
五重塔
上
伊東書三者

A48/1

伊東專三著

天野可秀閲

梅堂

國政画

金松堂

梓

綾重の衣紋廼初編

上の巻

春秋

筆は耕し意は織る。陳文

漢語もしら糸の。吾儕ハ筆の中るゝ任せ。

幾春秋を重ねたる。長物語の綾重と。有喜世の

紙面へ取廣げ。習ひ覚ぬ裁縫を仕懸し中途。書

房の主個が引取て。是ぞ晴着の合巻ゝ。又縫

直せの急仕事も。受込夜延い欲と両個然ども

下手な仕立ゆえ。衣紋の着ハ悪くゝんが。成丈襤褸

を出さぬやう。三袋揃ひ三枚着ゝ。首尾よく上る

積るとゝ。彼の糊附の偽賣品ゆゑ。正直正銘實録

なる筋。おめし成ッて御了承くださる

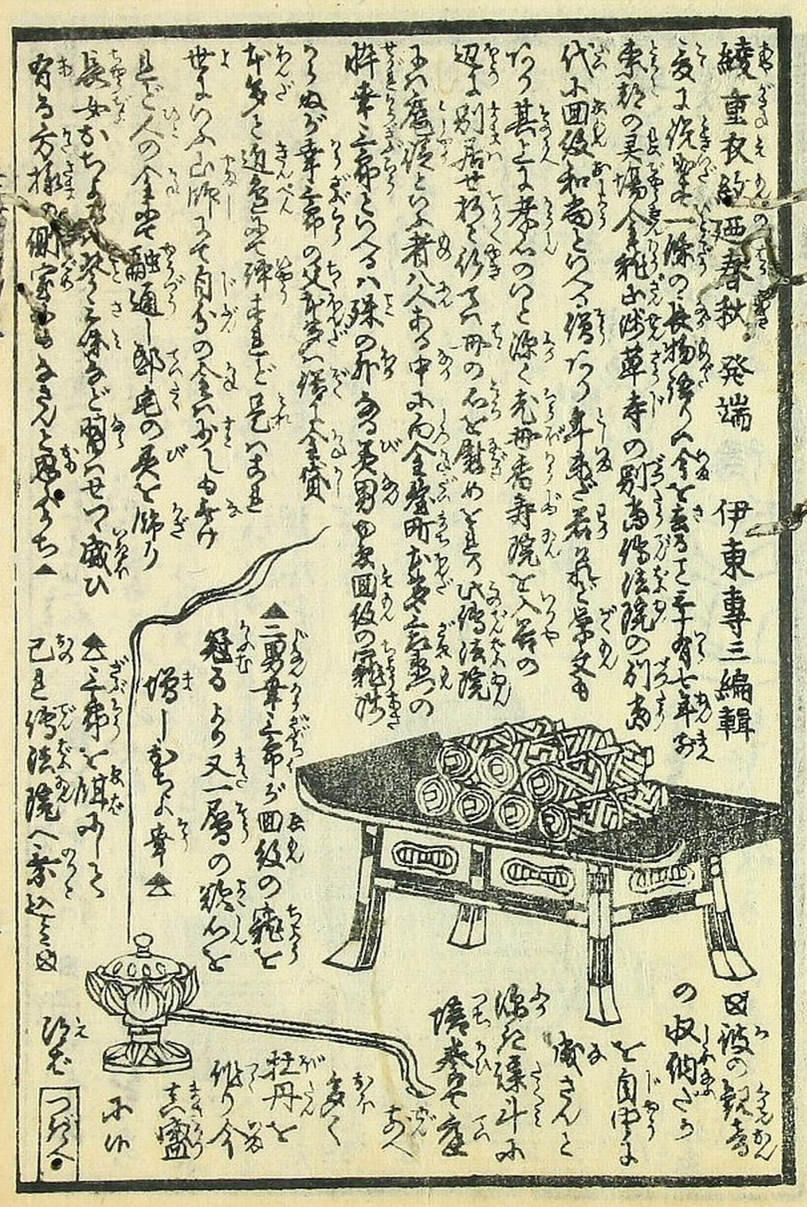
明治十二年六月初旬　伊東專三記

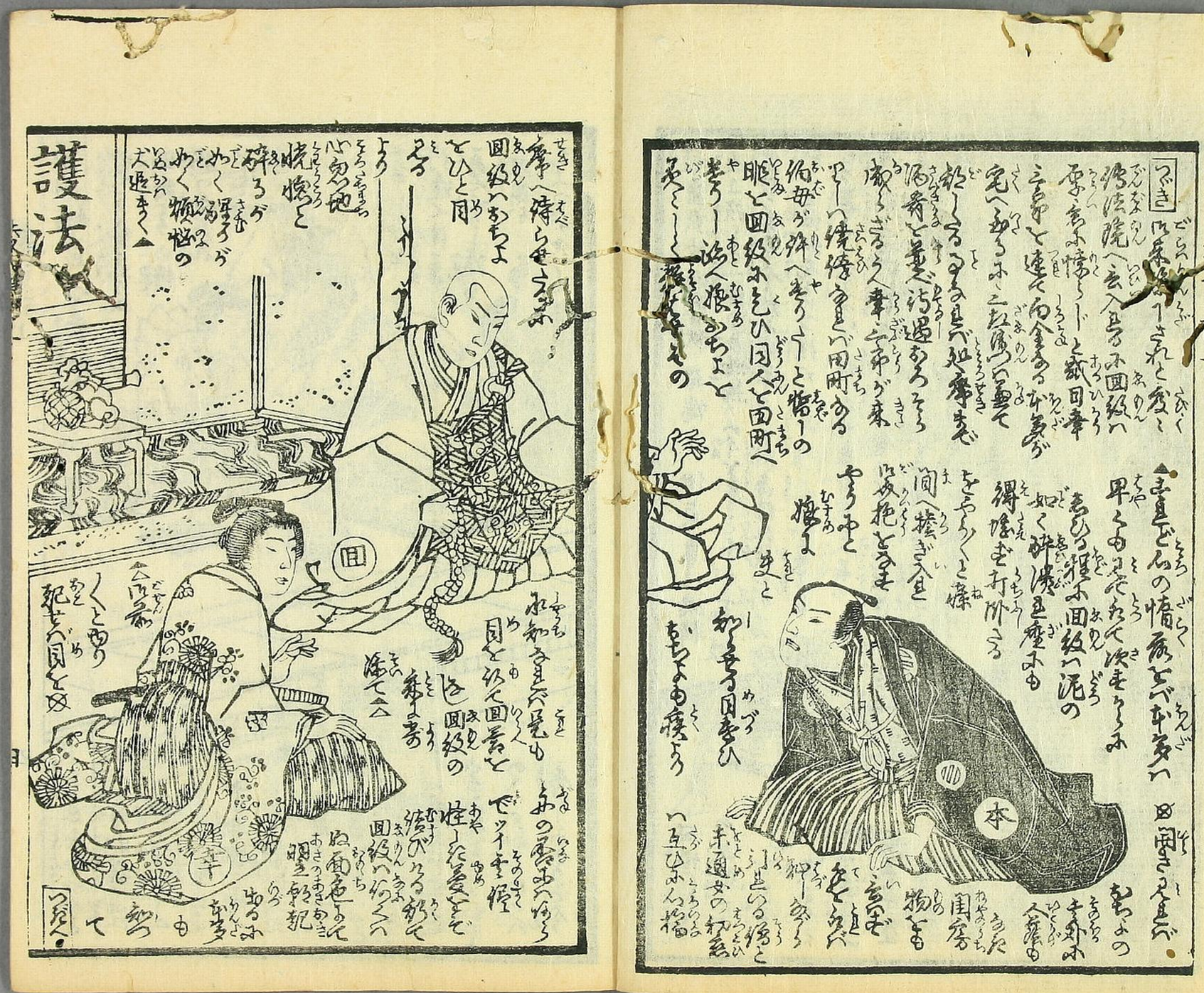
48-8191

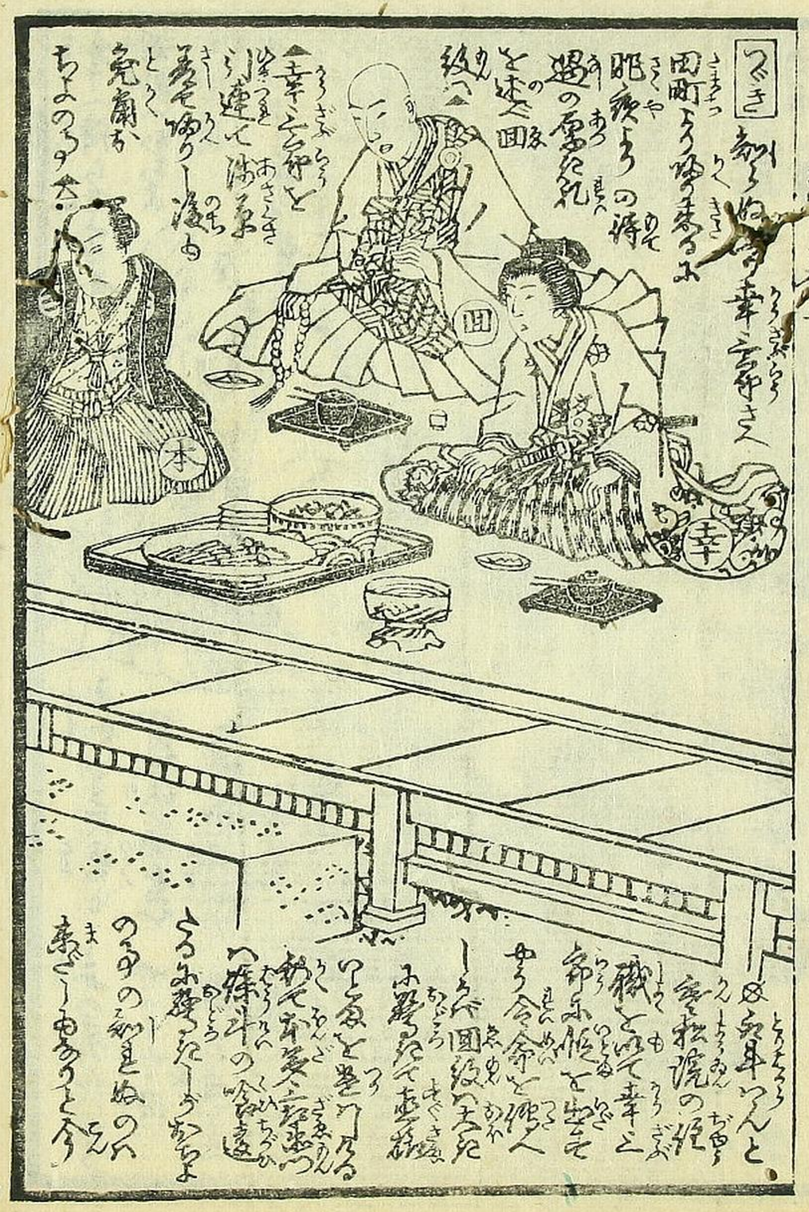
傳法院別當代田紋法師
姫田のおまん
女房
玉千代
蔵三郎
藤井の
吉春
桂木谷の藤助

綾重衣紋廼西鶴秋　発端

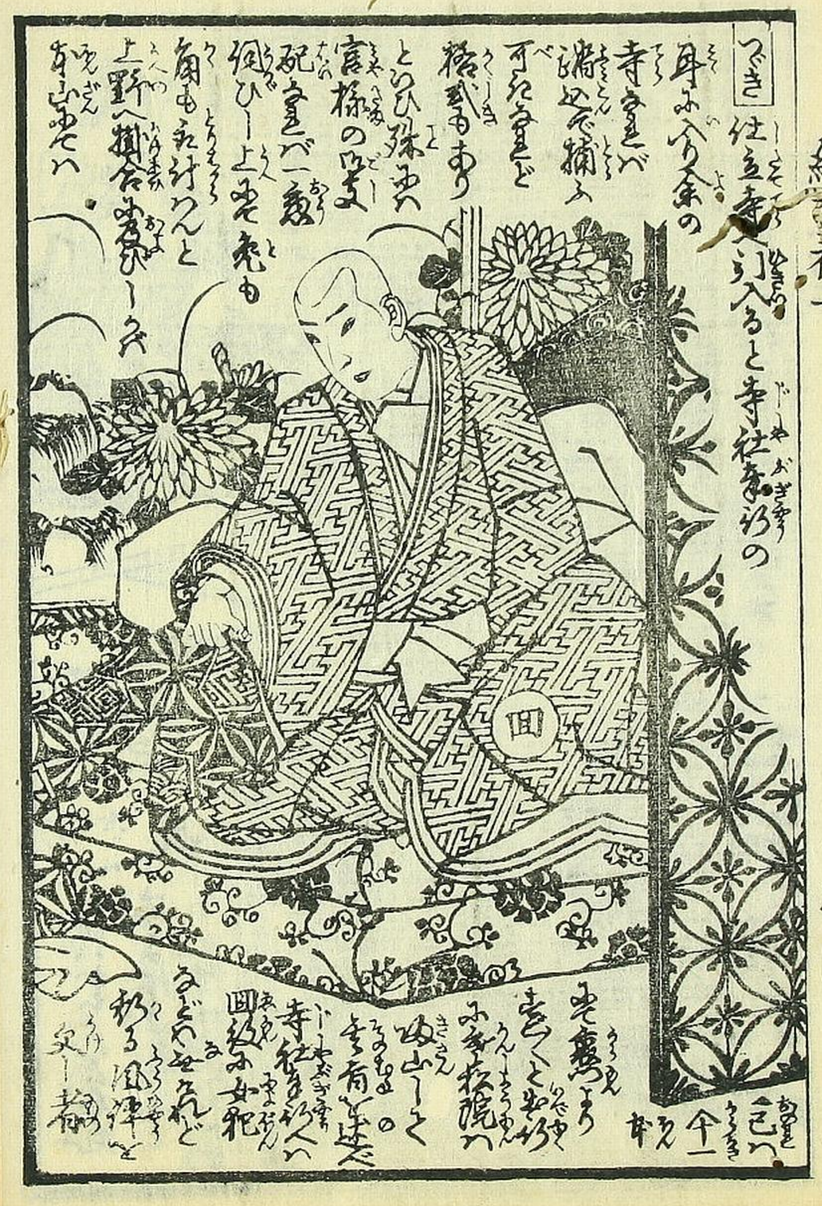
伊東専三編輯



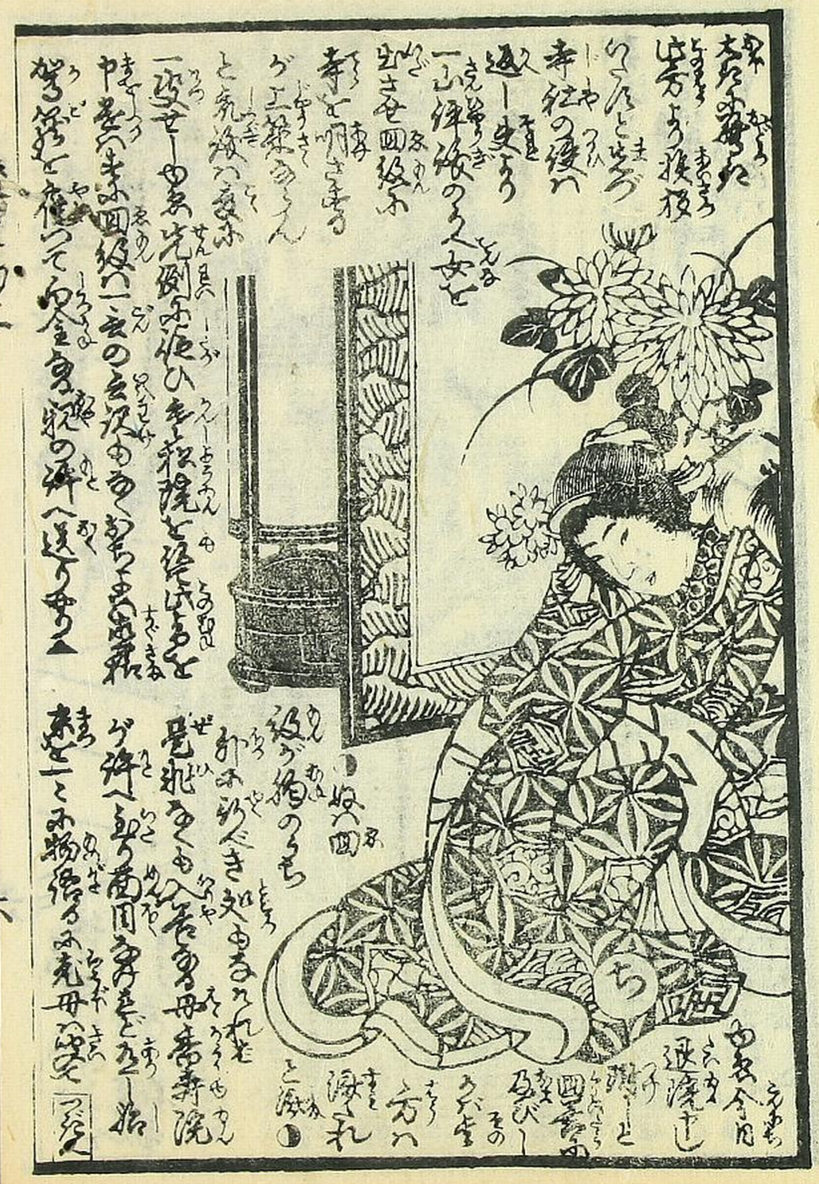

護法
本
田


つゞき
田
本
幸

ち
つぎ



つぎ　仕立屋　引きいれると寺社参りの
母おかり余の
寺まえ
滑如ぞ捕ム
可ゑ寺まど
格式もあり
とらひ孫ゑへ
富様の
祝寺まへ一番
縄ひー上ゑ
角ゑ行けんと
上野へ掛合ゑ
ーゑ



寺社の後へ
逃ーゑ
一ゑ伴後のろ人女と
出さを四級ふ
寺と明さまる
ゲ上樂ゑうん
と気後へ
一ゑ
中ゑへ
ゲ浮へ

つゞき

つゞき

官許 牛肉丸
官許 天恭丸
文 地小錦繪問屋 金松堂

010190511680

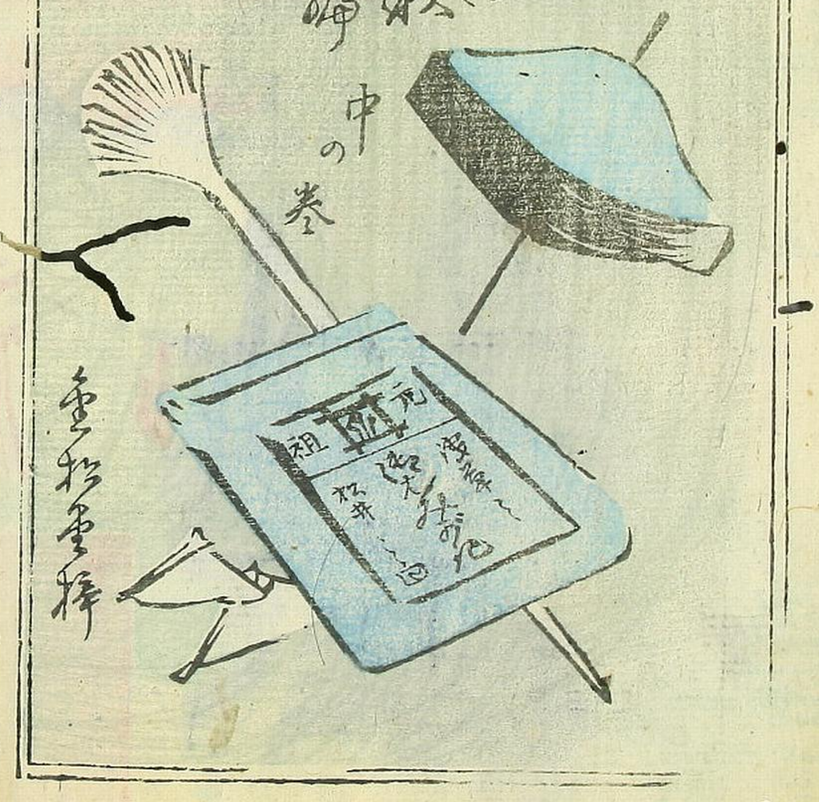
綾重衣
紋廼春
秋初編
山門
中
金水亭
壽梓
尼田勇長

A687
2

浸亭衣洗廼美秋

初編中の巻

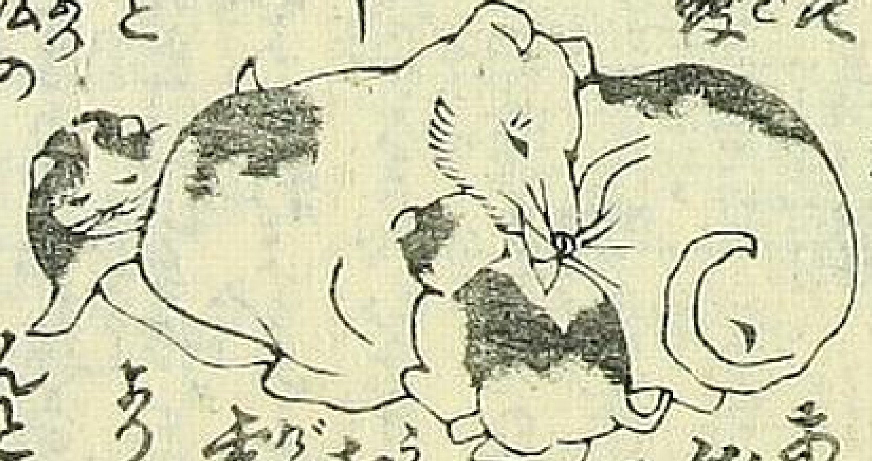
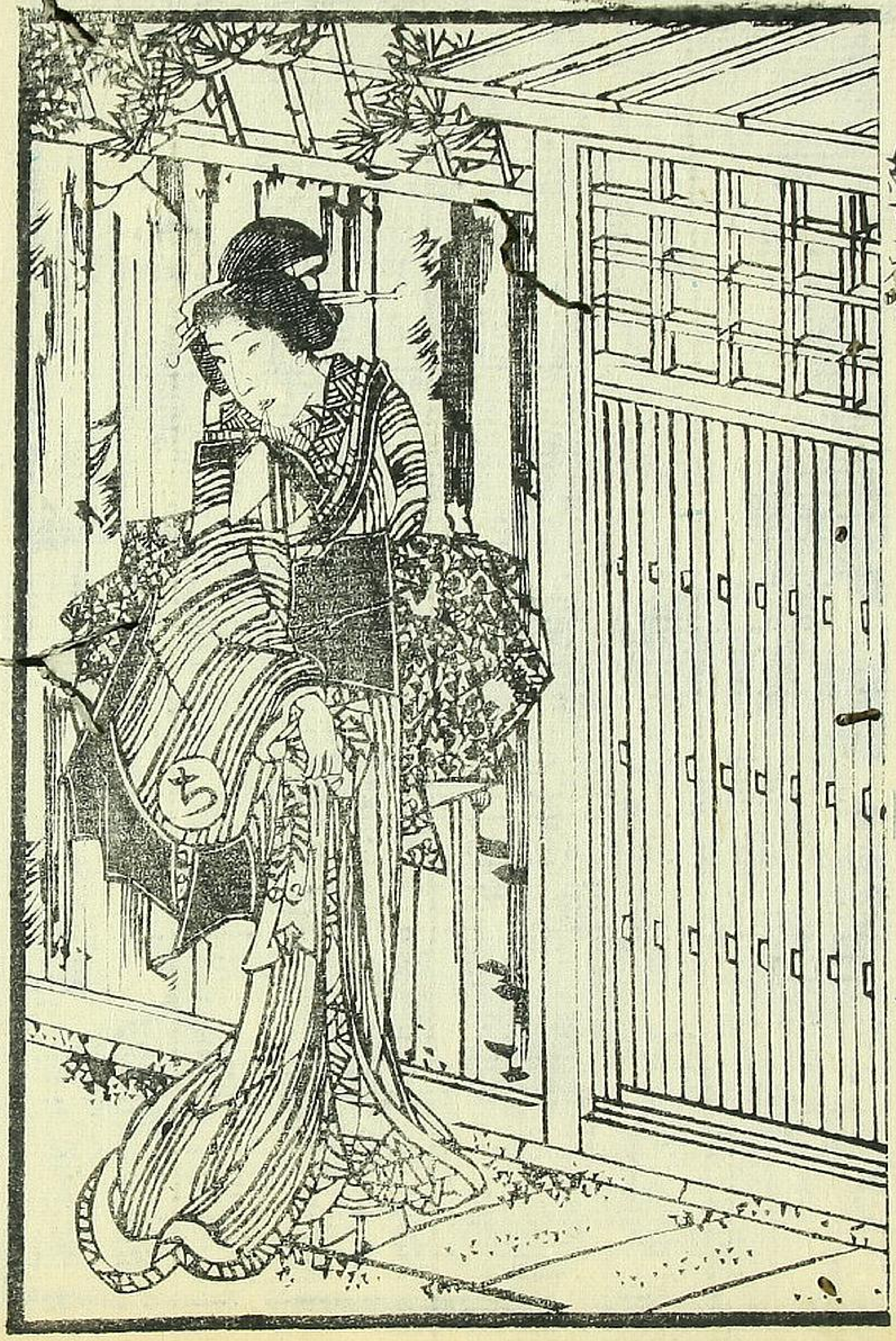
伊東專之著
天籟子美賞
松亭國政画



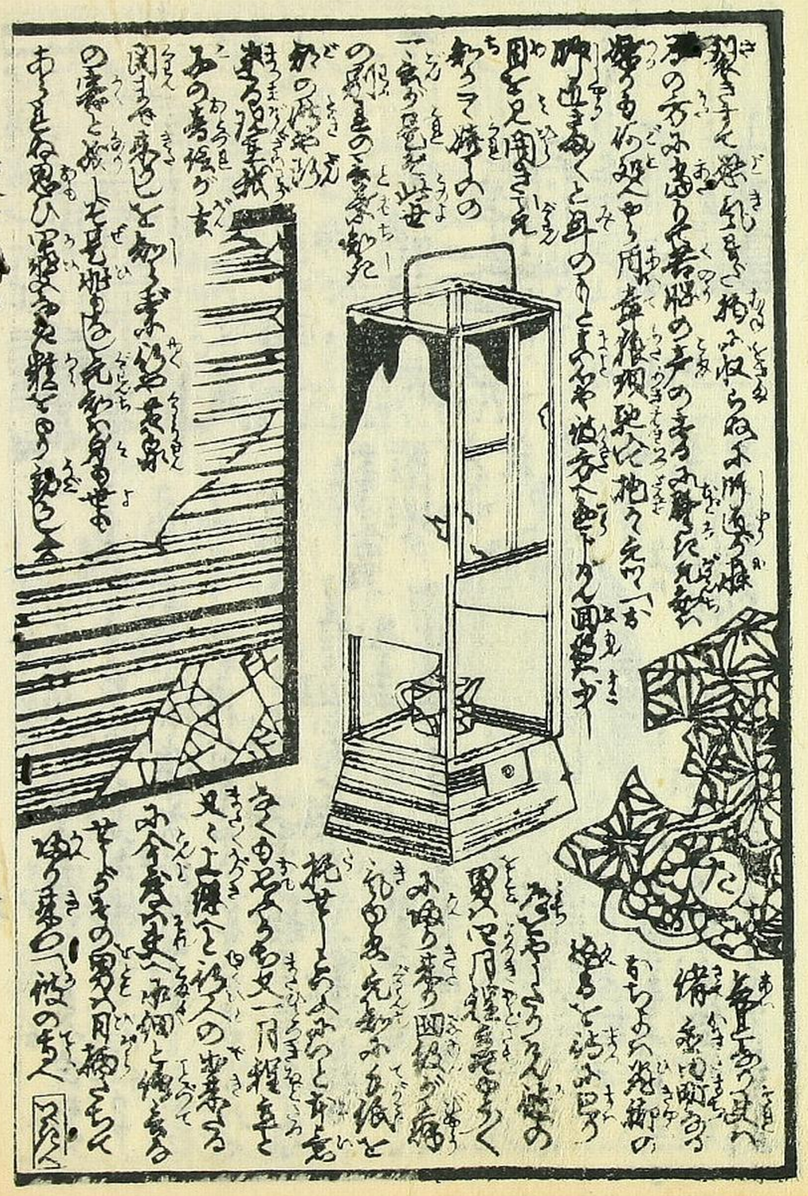
48-8192

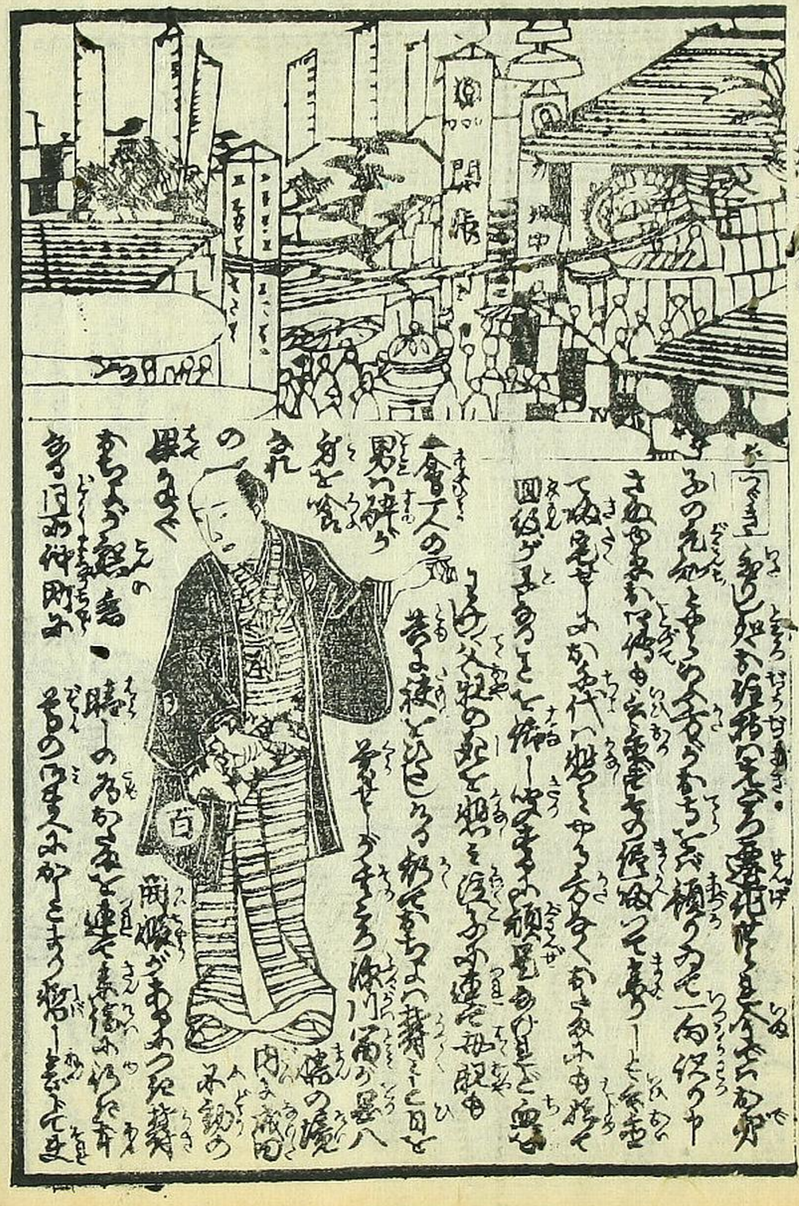
初編中の巻

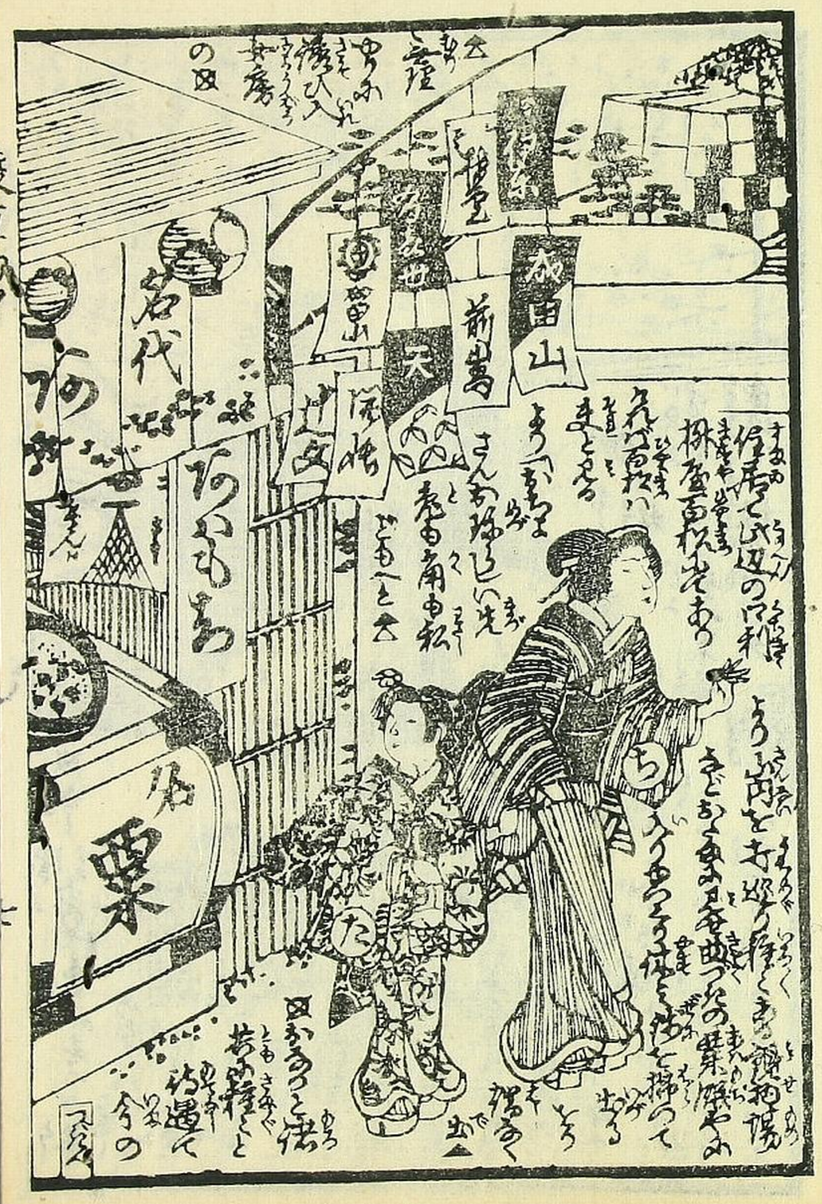
つぐれ
安政二年の暮に
清水門前焼地内
ある紙宅へ逃
込た富の妻
と言ふ
しちつ
田町
ある母
ある娘
かゑも
ゆめ
ちと
ちゝ
左

つゞき そも〳〵洗濯業を渡世にて夫が中木の稼
ちなまず成人ぎるを待間に些少の者が主従ある契約せし
西関ありて行と共彼の団扇が子の思ひ出し遠く離れて
居るハ已に十年の程も音信を聞ざるしが今なほ
そもそもハ再び衣を得るも存在なきまゝ心安
やしよふと童妻病しき身くと勤めて
備も十分に稼ぎへ暮しを務せし
その男ハ渡し一つの遠方の事多図と行めて備も
回復和尚ハ神子の元気と備まず文佛場の二三昧長の年月を
送るうち回復ハ病の疾ふ所ハ何ぞ重りをもて近辺ハ心を
とろ良医者と元も為す事なけれバ元気ハ殊に腑を安ずし世の諸仏の
加護よ縁ずハ年ふ疾病平人惑ひさんと胴風面形を切るが如く
まきとも甲斐なき大悩力産の重井の水波と謡離する元気の△

一分術ハ永るも
御遊ぶ病気全
娘を行る衣て
やまうたの術
ありて
気を
拭ひ
着物
打掛
虚実
ありよう
んとする
手打ちお経
扨さあふ
つゞく


元

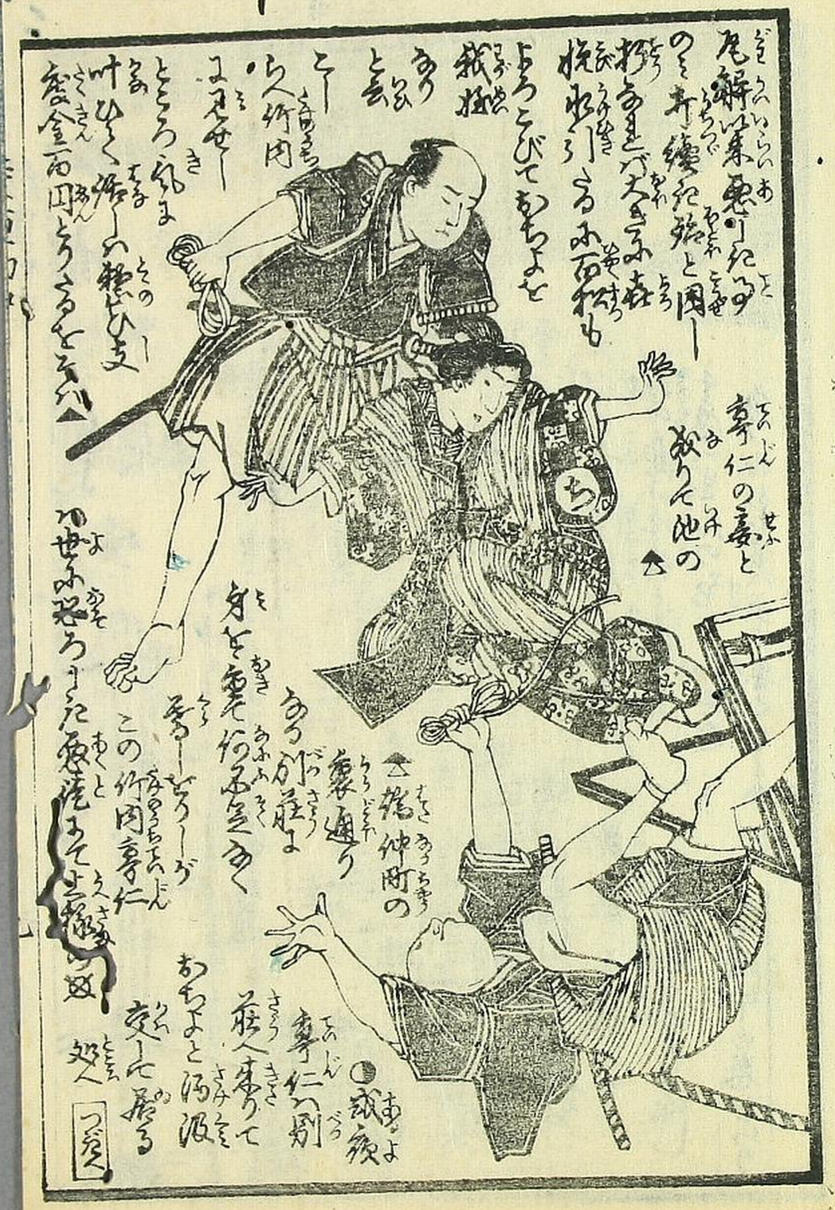


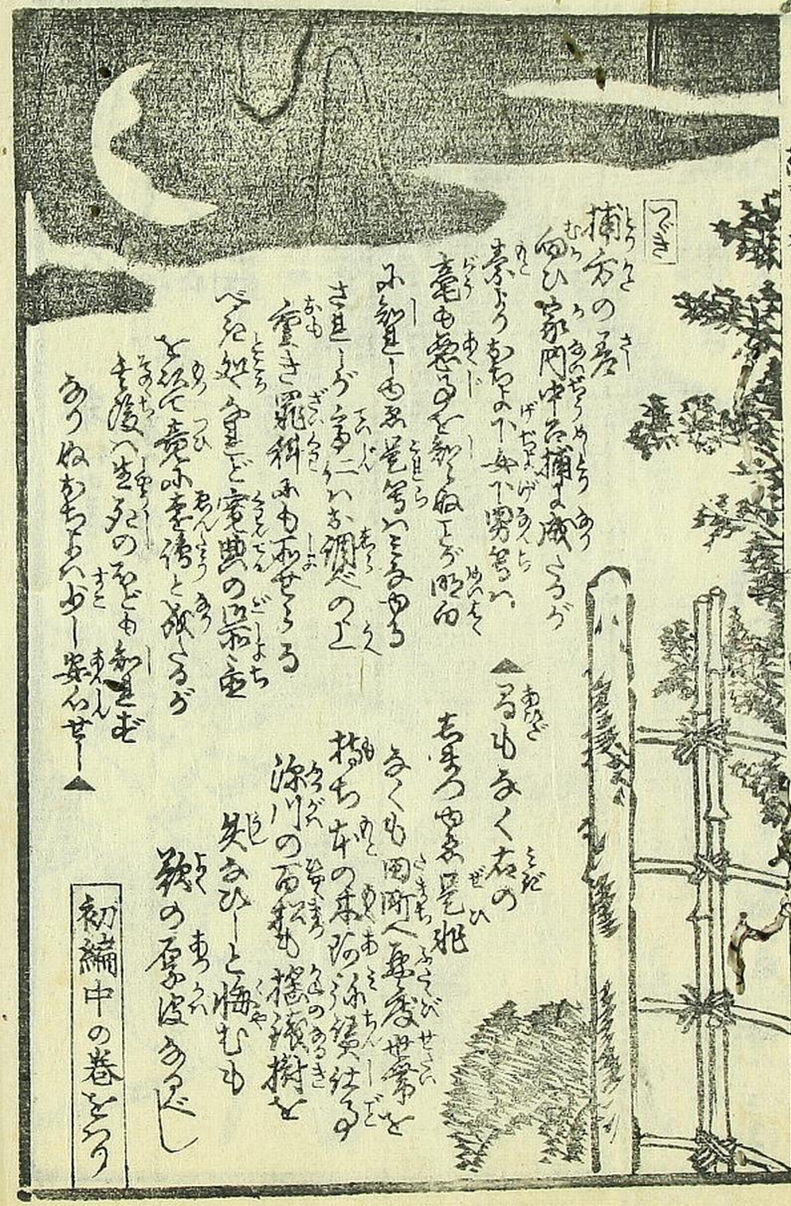



石代
栗

亭
百
ち

つぎ





つゞき

▲るもおく右の
ちまつ世ゑ見ぬ
ゑくも四所へ春度世帯を
持ち本の来沿の涙続けるの
涙川の面れも 樫後樹を
矢ふひーと悔むも
鞍の原波ゑるゞし

初編中の巻をゝり

編輯 御開化文章 全 開化文章 全

編輯 近世紀聞 夜叉風河鬼怒花仇夢 全

同編輯 義烈回天白首 全 金花七變化 全

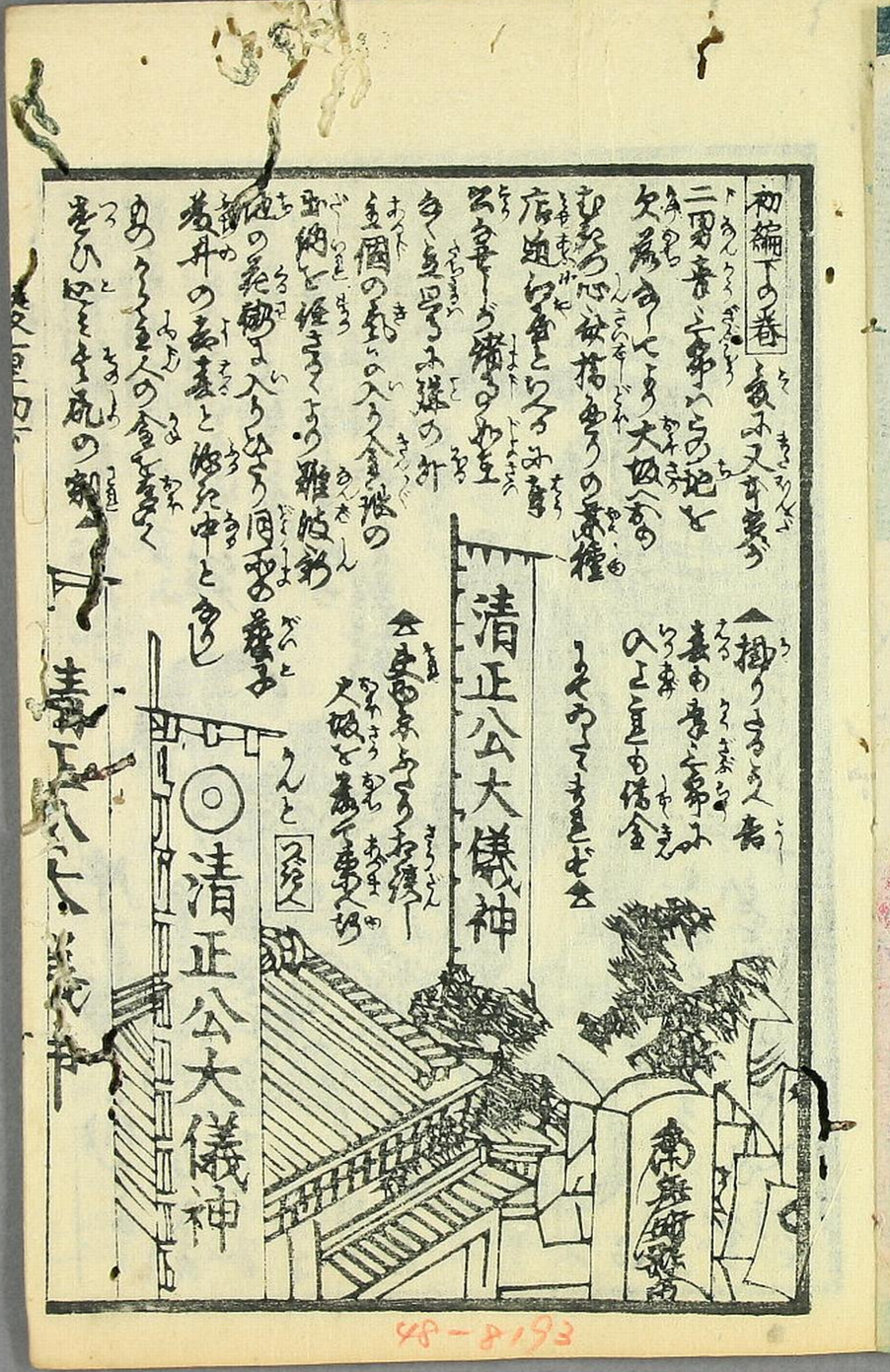
同 漢語伊呂波字引 全 婦女鳴神 全

文 地本錦繪問屋 亀松堂 假名垣魚文

010190511699

梅堂國政画
天野可春閲

A451
13

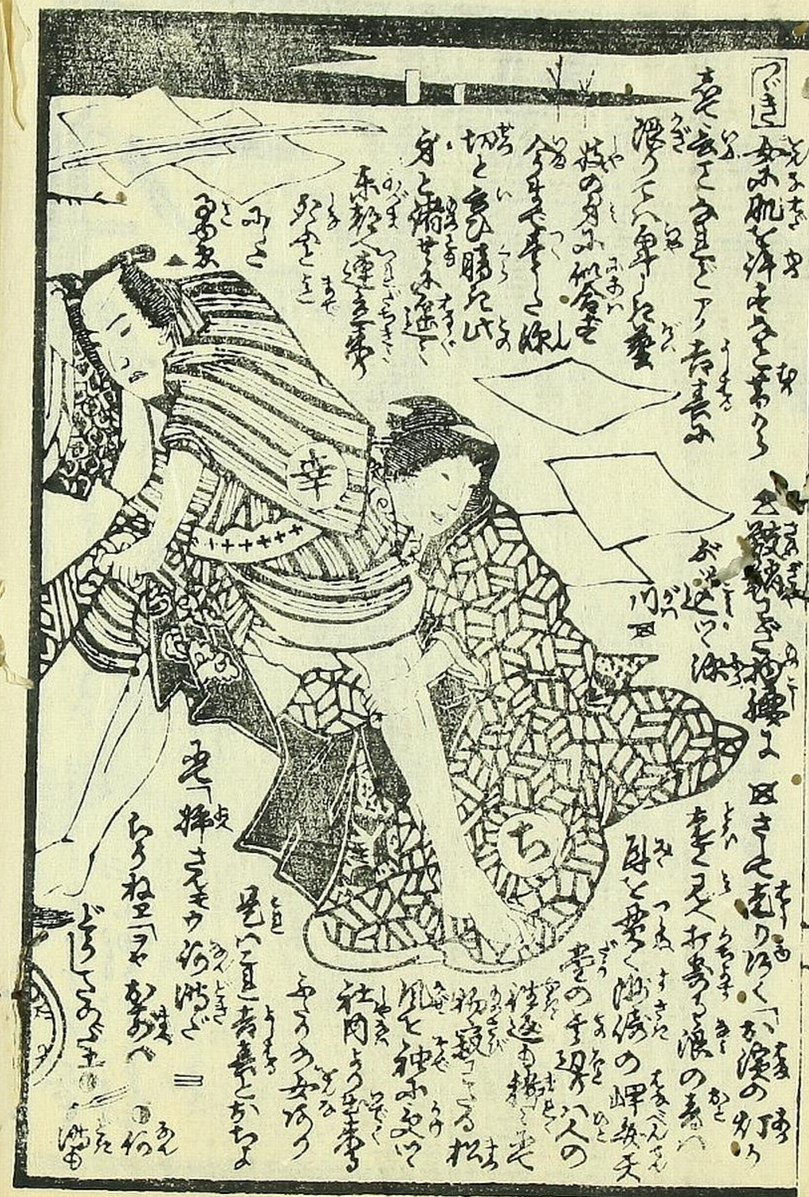


48-8193

よ
幸

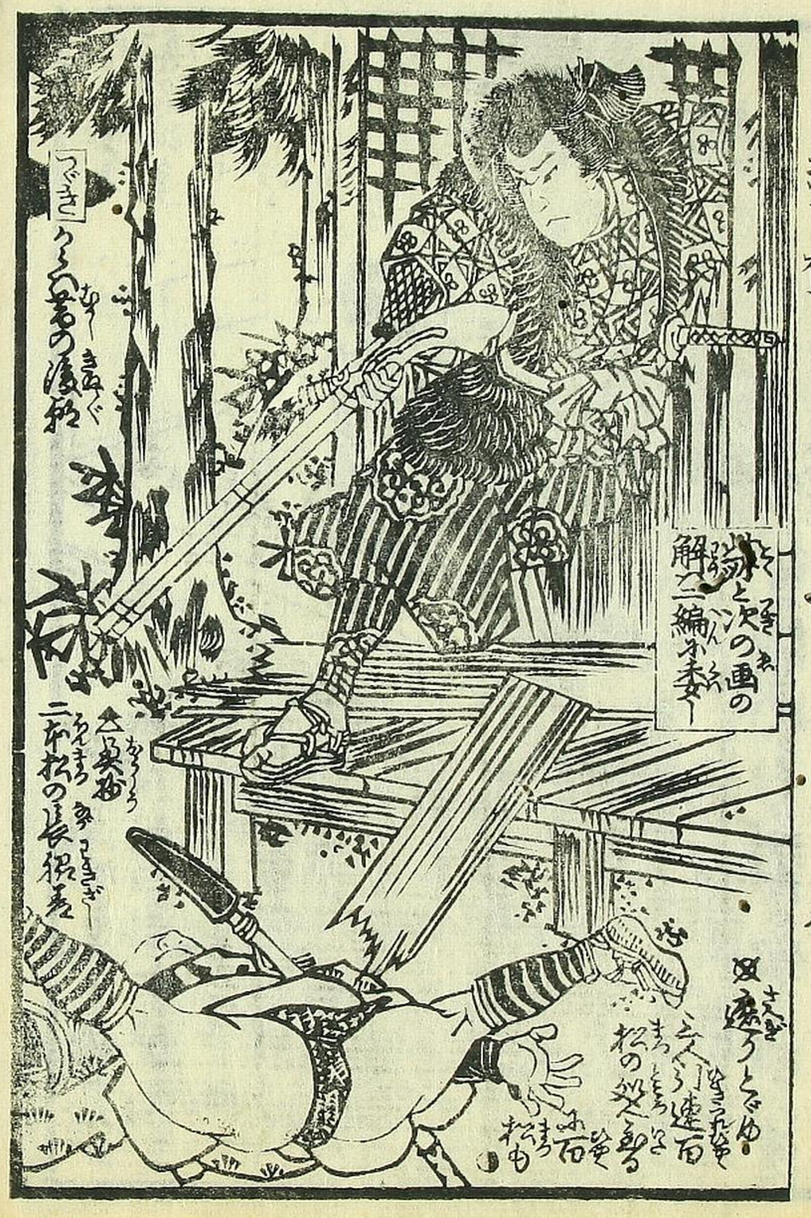
つぎき
次へ

よ
百
銀

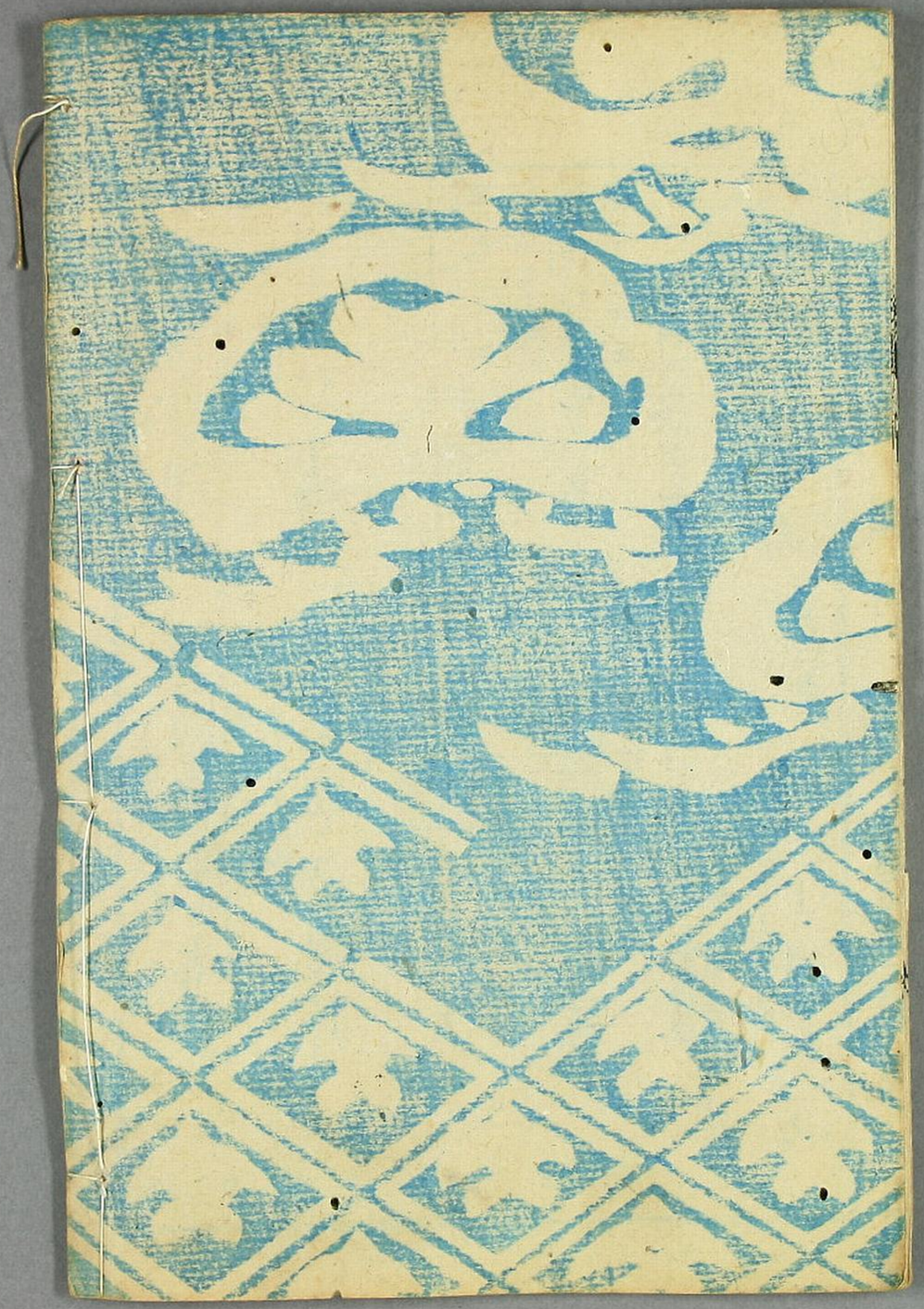


幸
長

よ
ち
百
う


つゞき
次の画の解は二編に委し

次へ

假名垣魯文著
高橋阿傳夜叉譚　八編　人尾　梅堂国政画
川上鼠麿編輯
國定忠次奇談鳥追笠　九編　人尾　梅堂国政画
伊東專三編輯
水錦閻魔王　三編　大尾　梅堂国政画
假名垣魯文編輯
格蘭氏傳倭文賞　三編　大尾　梅堂国政画
仮名垣魯文編輯
綾東衣紋廼春秋　三編　大尾　梅堂国政画
渡邊文京編輯
名廣澤邊萍　九編　大尾　梅堂国政画
川上鼠麿編輯
桃競心　三編　大尾　梅堂国政画
假名垣魯文編輯
戀相場花王夜嵐　三編　大尾　梅堂国政画
出版御免明治十四年
文　地本錦繪問屋
金松堂　出版人　辻岡文助
東京市日本橋区通二丁目二番地
編輯人　雜賀豊太郎
大阪市浪花区日本橋二丁目二番地
編輯人　雜賀豊太郎

010190511702